



ABILITY

ABILITY Pro徹底攻略！

その12 人とは違う個性的なサウンドのリズムループを使いたい！

Ver1.5で追加された新しいエフェクター「relectro」は、EQやコンプのようなミックスで使うものとは異なり、様々なパラメーターを駆使して根本からサウンドを作り変えてしまうエフェクターです。例えるなら、オーディオ・トラックを素材にして、シンセサイザーのような音作りをするイメージでしょうか。すると、フィルターで加工するアレか...なんて出音をイメージするかも知れませんが、その想像をはるかに超える摩訶不思議なエレクトロ・サウンドが作れるのが「relectro」なのです。(文：平沢栄司)

初期状態から自分でパラメーターを操作すると楽しさ倍増！

「relectro」の多彩なファクトリー・プリセットから選ぶだけでも意表を突くサウンドになりますが、あまりにも凝った設定なので自分なりの個性を入れていくのは至難の業です。また、プリセットを選ぶよりも、ゼロからパラメーターをいじっていく方が偶発的に面白いサウンドがどんどん作れるので楽しさが倍増します。まずは、画面下段のプリセット・コントロールのエリアで、「User Presets」から「StoreYourPresetsHere」を選んで、全パラメーターを初期状態にリセットしておきましょう。

生ドラムのループがシンセ・パーカッションに生まれ変わる！

下準備として、ブラウザから好みのドラムのフレーズを見つけて、オーディオトラックに貼ってループ再生しておきます。そして、トラックに「relectro」をインサートし(画面1)、先ほどの手順で初期化すると、素のドラム・ループの音が聴こえてはるはず。ここから、「relectro」のMAINセクションに並ぶ主要なパラメーターを操作して、サウンド

の変化を体験してみましょう(画面2)。

生ドラムの波形が崩れて電子音っぽくなっていく

まず、触って欲しいのが、中央上にある「PITCH」、「FIX」、「NOTE」のスライダー。難しいことは抜きにして、これらのスライダーを上下に動かしてみましょう。すると、ピッチシフターとフィルターとビットクラッシャーが混然一体になったような、独特の質感を伴って生ドラムのサウンドが崩れていき、荒々しくなったり電子音が混ざったりしながら、どんどん不思議サウンドへと変化していきます。

電子音のピッチが変化して動きが出てくる

続いて、その右にある「TRACK」をスライダーを一番下に、「SPEED」の左()のスライダーを上下に動かしてみましょう。今度は、混ざってきた電子音がキュンキュンと音程変化するようになります。この「TRACK」と「SPEED()」の3つのスライダーの調整次第で、音程変化の動きの方向やその速さが変わります。

電子音の割合を増やしたり音色を変えてみる

次は、右側の波形が表示されているエリアの下にある「WAVE-REPLACE」のスライダーを左右に動かしてみます。すると、混ざってきた電子音が目立って、よりシンセっぽくなったでしょう。そして、波形表示の画面右上にある三角のボタンをクリックして波形を切り換えると、電子音の音色が変化していきます。ここまでくれば、もはや元が生ドラムとは思えない程のエレクトロなリズムループになっていると思います。

さらに、エレクトロっぽいリズムに変化させる

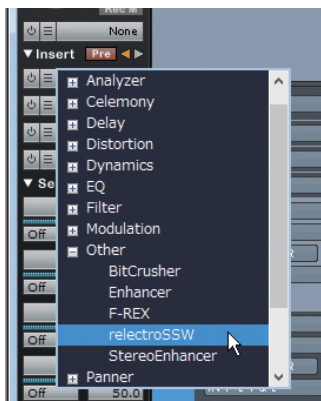
今度は、上段の左の方にあるCUT-FILTERのエリ

アで、下のスライダーを少しずつ右に動かしてください。すると、低音のキックのタイミングで鳴っている電子音のニュアンスが変化したでしょう。同様に、上のスライダーを使えば、高音のハイハットやスネアのタイミングで鳴っている電子音も変化します。また、先ほどの波形が表示されているエリアの左にある「REPEAT」のスライダーを少しずつ上げていくと電子音が更に強調され、コロコロした動きが感じられるようになります。

「relectro」は波形をリアルタイムで加工している

最後に、ちょっとだけ「relectro」の仕組みを紹介しましょう。入力された信号は、細かくスライスされた波形となり、それぞれのピッチを上下させたり固定したり、フィルターを通して抽出した元波形の一部をシンセ波形に差し換えたり、波形をリピートさせたり...というように、サンプラーを使った加工や波形を切り刻んで作り変えるグラニュー・シンセシスのような音作りをリアルタイムで行っています。さらには、操作した各スライダー(パラメーター)は、内蔵のLFOやステップシーケンサーでコントロールできるため、プリセットにあるような大胆な動きを作っていくことが可能です。

仮に「relectro」の仕組みを理解して操作したとしても、どんな音になるのか予測はできないでしょう。むしろ、直感的にスライダーをいじりながら偶然できた個性的なリズム・ループを基にイマジネーションを膨らませるのが「relectro」の真骨頂だと思います。使いどころは難しいですが、人とは違うサウンド作りに役立ててください。



画面1 「relectro」は、エフェクター一覧の中の「Other」に分類されている。ドラムループを貼ったトラックのInsert欄に挿入しておく



画面2 左側の入力から右側の出力に向かって、いくつかのセクションに分かれてパラメーターが配置される。音作りの中心になるのは中央上段のMAINセクションだ。その下は、メインセクションのパラメーターを可変(モジュレーション)するためのセクションになる